

発達障害って、なんだろう？

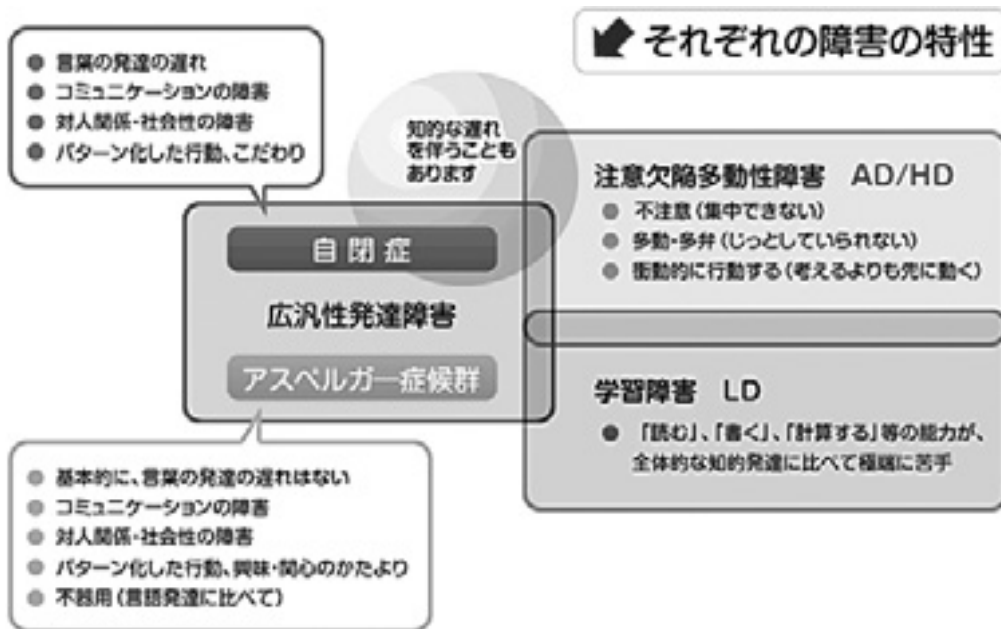
理解する

発達障害って、なんだろう？



発達障害は、脳機能の発達が関係する生まれつきの障害です。発達障害のある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変った人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものと理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

ここでは、発達障害のある人を理解するために、自閉症、アスペルガー症候群その他広汎性発達障害、学習生涯、注意欠陥多動性障害など、主な発達障害の特徴を紹介します。なお、発達障害は多様であることをご理解ください。



1 広汎性発達障害

コミュニケーション能力や社会性に関する脳の領域に関する発達障害の総称です。自閉症、アスペルガー症候群のほか、レット障害、小児期崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害を含みます。

《自閉症》

自閉症は、「言葉の発達の遅れ」「コミュニケーションの障害」「対人関係・社会性の障害」「パターン化した行動、こだわり」などの特徴を持つ障害で、3歳までには何らかの症状が見られます。また、自閉症の人々の半数以上は知的障害を伴いますが、知的に遅れのない高機能自閉症の人々もいます。最近では、症状が軽くても自閉症と同質の障害がある場合、自閉症スペクトラムと呼ばれることがあります。

《アスペルガー症候群》

アスペルガー症候群は広い意味での「自閉症」に含まれる一つのタイプで、「コミュニケーションの障害」「対人関係・社会性の障害」「パターン化した行動、興味・関心のかたより」があります。自閉症のように、幼児期に言葉の発達の遅れがないため、障害があることが分かりにくいのですが、成長とともに不器用さがはっきりすることが特徴です。

2 注意欠陥多動性障害（AD/HD）

注意欠陥多動性障害（AD/HD:Attention-Deficit/HyperactivityDisorder）は、「集中できない（不注意）」「じっとしてられない（多動・多弁）」「考えるよりも先に動く（衝動的な行動）」などを特徴する発達障害です。注意欠陥多動性障害の特徴は、通常7歳以前に現れます。多動や不注意といった様子が目立つのは小・中学生ごろですが、思春期以降はこういった症状が目立たなくなるともいわれています。

3 学習障害（LD）

学習障害（LD:LearningDisordersまたはLearningDisabilities）とは、全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難を示すさまざまな状態をいいます。

気づく

気になる行動・反応はありませんか



社会で生きていくために必要な社会性やコミュニケーション。発達障害のある子供は、それが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると、さまざまな問題や困難に直面することになります。障害が理解され、適切なサポートがされないと、学校に行くことがストレスとなり、不登校や引きこもりなどの二次障害につながる場合もあります。

発達障害のある子供が、社会に適応する力を身に付けながら、自分らしく成長できるようにするためには、発達障害に早く気づき、適切な療育*につなげることが重要です。ここでは、発達障害に気づくためのポイントを紹介します。

*療育＝医療や訓練、教育、福祉などを通じて、障害があっても社会に適応し自立できるように育成すること。

人との関わり方	<ul style="list-style-type: none">・一人遊びが多い、一方的でやりとりがしにくい。・おとなしすぎる、常に受動的。・大人や年下の子、あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊べない。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い。・おしゃべりだが、保育士や指導員の指示が伝わりにくい。・話を聞かなければならない場面で離席が多い、聞いていない。
イマジネーション・想像性	<ul style="list-style-type: none">・相手にとって失礼なことや相手が傷つくことをいってしまう。・友達がふざけてやっていることをとらえ違えて、いじめられたかと思ってしまう。・集団で何かしている時にポーッとしていたり、ふらふらと歩いたりする。・急な予定変更時に不安や混乱した様子が見られる。
注意・集中	<ul style="list-style-type: none">・一つのことに没頭すると話しかけても聞いていない。・落ち着きがない、集中力がない、いつもぼんやりとしている。・忘れ物が多い、毎日のことなのに支度や片づけができない。
感覚	<ul style="list-style-type: none">・ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手。・靴下をいつも脱いでしまう、同じ洋服でないとダメ、手をつなぎたがらない。・極端な偏食。・揺れているところを極端に怖がる、すき間など狭い空間を好む。
運動	<ul style="list-style-type: none">・身体がクニャクニャとしていることが多い、床に寝転がることが多い。・極端に不器用で、絵やひらがなを書く時に筆圧が弱い、食べこぼしが多い。・運動の調整が苦手なで乱暴に思われてしまう、大きすぎる声。

学習	<ul style="list-style-type: none"> ・話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い。 ・難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがなが書けない。 ・図鑑や本を好んで読むが、作文を書くことは苦手。
情緒・感情	<ul style="list-style-type: none"> ・極端な怖がり。 ・ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい、思い通りにならないとパニックになる。 ・一度感情が高まると、なかなか興奮がおさまらない。

配慮する

発達障害の人に接するとき



発達障害があるといっても、障害の種類や程度によっても違いますし、年齢や性格などによっても、一人一人、現れ方は違います。生活の中で困難なこと、苦手なことも一人一人違います。そのため、一人一人の特徴に応じて配慮したり、支援したりしていくことが重要です。ここでは、家族や学校、現場など身近な場所で、発達障害のある人と接する方はもちろん、それ以外の方にも、発達障害がある人に対して配慮していただきたい、基本的なポイントをいくつかご紹介します。

《できたことほめる／できないことを叱らない》

発達障害のある人は、ほかの人が簡単にできることでも、うまくできないことがあります。本人ができないことや失敗したことを責めたり、叱ったりすると、本人が「自分はだめだ」と落ち込んでしまったり、他の人や社会のせいにして批判的・攻撃的・反社会的行動傾向が強まったりしてしまいます。注意をする場合は、努力している点やうまく行っている点をほめた上で、できなかったところは、どのようにすればもっとよくなるかを肯定的・具体的に伝えましょう。

《視覚的に情報を提示して説明する》

発達障害の人の中でも、自閉症などの広汎性発達障害の特性をもっている人の多くは、言葉で言われるよりも、目で見て分かる情報のほうが理解しやすいといわれています。その人が理解している言葉を使い、写真や絵などを添えて説明してあげると、理解しやすくなります。

《説明や指示は短い文で、順を追って、具体的に》

発達障害の子供（人）はあいまいな表現を理解するのが苦手です。言葉で説明するときは、短い文で、一つずつ順を追って、具体的にすることなど配慮しましょう。話を理解しやすくなり、見通しがもてるようになります。

《安心できる環境を整える》

自閉症の人たちの中には、人混みや大きな音、光などの刺激を苦手とする人が多くいます。そのような刺激による不快感を大きくしないよう、安心してできる環境をつくってあげましょう。

《善悪やルールをはっきりと教える》

発達障害のある人は、暗黙の了解や社会のルールが分からないことがあります。いけないことや迷惑なことははっきり教えましょう。叱ったりするだけでは、どうしたらよいのか分からないので、具体的にどのようにしたらよいかを教えましょう。

《発達障害の子供（人）を温かく見守る》

子供が騒いだり、パニックを起こしたりしているとき、「なぜ親は叱らないんだ」といって立つ場合があるかもしれません。しかし、発達障害の子の中には、少しの時間待つことで無理に叱るよりも早く混乱から抜け出せることもあります。周囲の人にこうした知識があるだけで、本人も家族も楽になります。

内閣府大臣官房政府広報室 政府広報オンライン「発達障害って、なんだろう？」（平成23年）より